

# 変わりがたカラ情報

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

## 一隅を照らす十島の教育



### 十二月...学びの場を求めて

十島村教育長 原口 英典

平成25年もあとわずか。地理的に海に囲まれた七つの島々にある各学校に学ぶ子どもたち。そして、その子どもたちがいることで、そこに教職という名の仕事に真摯に向き合っている先生方。それぞれに、それぞれの一日一日を、最善の努力でもって過ごしてきた日々が積み上げられた結果として、今年もまた、やがて一年が過ぎようとしている。それぞれのかけがえのない積み上げの日常そのものに敬意を表します。

ところで、わが十島の学校に、この四月、新たに3人の中学三年生が転入してきた。中三といえば義務教育を修了し、卒業後の進路選択と進路決定の最終決断の時期である。十島の教育に自分の貴重な一年を賭けてくれたのだ。「ここ十島で、これからの学びの土台を作り上げるのだ。」そんな願いと思いと祈りのもと、親元を離れ一人でやってきたこの子ら。自分を生かすための学びの場。その場を選べるとしたら、それは、自分を独り立ちさせてくれる逃げ場のない教室であり、孤独をくぐらせてくれる生活環境だ。「独」とは、孤独の独でもあり、独立の独でもある。独り立ちの機会を与えてくれる独なのだ。

3人は、このような環境を選んでくれた。そして、自分の意志でここを選び、自分を置いたこの場で、確実に自分の花を咲かせつつある。

この中三の転入生(山海留学生)に限らず、ここに生を受けた子どもたちも、教職員やIターン者等の親の仕事の関係でここに学ぶ子どもたちも、他の所為にしない生き方としての学力を身に付け、この地を旅立っていく。

見える点数としての「学力」もさることながら、見えない独り立ちするための「学力」を身に付けるべく頑張る十島の子どもたち。これからもここに踏ん張り、確かな力を先生方と、醸成してほしいと願う。

私たち教職員も、「鳥が選んだ枝」ではなく「枝が待っていた鳥」としての自分づくりをどこまでも追求したいと思う。子どもと向き合う教職員は、あくまでも子どもに選ばれ、子どもに待たれる存在でありたい。

それぞれに進む道あり花八つ手 (坪田秀邑)

山茶花は魂のはな散りてなほ (原ユウコ)

### 【コンクール受賞】

#### 第61回学校新聞コンクール

2席 宝島小中学校  
佳作 口之島小中学校

「ソニー子ども科学教育プログラム」  
奨励校 悪石島小中学校

#### 第15回南九州市かわなべ育の俳句大会

学校賞 口之島小中学校  
個人賞 特選 宮山雄輝 (宝島中2)  
特選 永吉美悠 (口之島小5)  
入選 中村久光 (宝島小5)  
入選 山元柊星 (口之島小4)  
入選 早川千穂子 (小宝島中3)

#### 第23回椋鳩十文学記念館賞全国読書感想文コンクール

特選 平泉翔大 (中之島小4)  
入賞 羽生偉琉 (中之島小3)

#### 第6回まごころ青春短歌大会

特選 伊地知麻鈴 (宝島中2)  
佳作 宮山雄輝 (宝島中2)  
佳作 森 祐太 (小宝島中2)



### 灯 シリーズ——十島の学校にやってきて 宝島小学校5年 今村 治樹

「見つけたら、すぐ手でおさえる。」  
「おさえたら、動いてもこわがらずにもう片方の手で完全に動きを止めて持ち上げる。」  
これは、ヘビやトカゲのつかまえるコツです。七か月前までは、トカゲどころかカエルさえさわることができませんでした。

ぼくは、四月から母の仕事の関係で宝島にきました。宝島には六名の小学生がいましたが、みんな生き物が大好きで、男子だけでなく、女子もカエルやトカゲをつかまえます。そして、かわいいと言いつつ体をなでます。ぼくもいつの間にかさわってみたい気持ちになりました。最初につかまえたのは、ヘリグロヒメトカゲでした。小さくて丸いつぶらなひとみがかわいいです。今では、ヘビやトカゲもこわいとか気持ち悪いと思うことはなく、むしろ遊び相手として、ぼくを楽しませてくれます。オオシマトカゲ、リュウキュウアオヘビ、アサギマダラなど、この島で好きになった生き物はたくさんいます。季節によっても見かける生き物は違います。これから先の



新たな生き物との出会いをぼくはとても楽しみにしています。

### 絆 シリーズ——山海留学生として学ぶ 口之島で学んだ感謝の心 ① 肥後 杏寿 現在高3年生<堺市>(口之島中)

二年前、実を言うと、私はしぶしぶ口之島にやってきました。妹が「一人で行くのは心細い」と言うので、仕方なく一緒に来たというのが正直な気持ちです。でも、今は、あの時祖母が誘ってくれ、両親や妹が背中を押してくれて本当に良かったと思っています。



最初に島の生活を楽しく変えてくれたのは、同級生の中村まちさんです。まちさんとは、毎日、日々の出来事を語り合いました。テレビや学校での出来事を話して笑い合ったり、時には悩みや将来の夢を相談したり...。いつも私の心の支えとなってくれました。本当の「友情」に気付けたのもこの島に来たおかげです。

運動会を通して、地域に支えられていることも感じました。口之島の運動会は、大阪とは違い、学校と地域の方々と一緒にやって行きます。私は輪回しが苦手で、練習でも困っていると、地域の方々から教えてくださり、おかげで何とか走れるようになりました。応援団長という大役も経験し、緊張しましたが、自分が一回り大きくなった気がしました。地域の方々から「団長姿よかったよ」と声をかけてもらいました。いつもはあいさつを交わすだけだった気がした地域の方々から、こうしてわざわざ私たちのために学校行事に参加して下さって、盛り上げて下さっている、地域みんなが自分を応援して下さっていることへのありがたさを感じ、また励みになりました。

応援団長もそうでしたが、地元大阪にいたら絶対に経験できなかったらと思うことがいくつかあります。(1月号に続く)

経験できなかったらと思うことがいくつかあります。(1月号に続く)

### 【子どもたちの作品】 天国でも元気だね ① (南日本新聞「若い目」H25.6.24) 宝島小学校4年 飯田 輝星

学校に来た時に、先生たちが図書室の前に集まっていた。見てみたら、アカショウビンが窓ガラスにぶつかって、倒れていた。「後から元気になって、飛んでいこう」と思っていたけれど、2時間たってもまだ倒れていた。みんながまた集まり、ショック死だと分かった。

ぼくたちは、かわいそうだと思って先生と一緒に、心をこめておはかを作った。友達にきれいなお茶をつんで、おはかに入れた。土を入れて、上に葉っぱをのせて、手を合わせた。ぼくはおはかを作っているときに、自分の命も大切だけれど人の命も大切にしたいと感じた。

アカショウビンが天国に行ったら、ぼくたちを見守ってほしい。家族もまた、大切に見守ってほしい。ぼくがもしアカショウビンだったらその人を大切に見守ってあげる。アカショウビン、天国でも楽しく、元気にがんばって



ね。生まれ変わって、もし人間になったら、一緒に遊んでね。

### 太よう (南日本新聞「子供のうた」H25.6.29) 宝島小学校小宝島分校 小学3年生 岩下 孟司

太ようは、あたたかい目で見守ってくれている  
ほかほかほかほか あたたかい  
夕夕夕日がきれいだな  
ほかほかほかほか あたたかい  
太ようは、みんなを見守っている



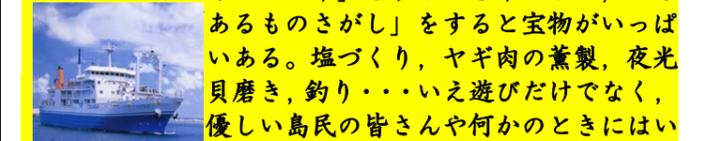
### 十島村の小・中学校からのメッセージ ⑭

悪石島小中学校 教諭 林 眞平

ここに来て2年近く過ぎた。今はこの島民になれたことが妙にうれしく、誇らしい気がする。帰港する漁船に手を振るとかえしてくれる。そんなつながりもうれしい。住宅の壁のはがれや穴の開きそうなるよぶよぶの床も、今では慣れた。

なかなかひよいと帰れないし、定期的に会議で上がる学校長をちょいと恨めしくも思ったりするが、たいしたことではない。30年前、子どもの調査で、2週間ほど宝島、諏訪之瀬島に来てからの夢。赴任が決まったとき、妻は「昔からの夢だったもんね」と表面上はあっさりと言ってくれ、こんなわがママができることを感謝している。50過ぎて、こんなやつは他にはいないはずと思ったら、似たような先輩が他の島にもいた2人も。前任校で退職されたS氏は、新任で本島に赴任したときの話をいつも誇らしげに話していた。「悪石は僕のドリームアイランドだ」その言葉が今は何となく分かる。S氏は退職したのをいいことに、毎年、春と秋は、渡り鳥の観察に帰ってくる。S先生こそ渡り鳥みたいだと僕は思っている。

ここでは「ないものねだり」をするときりがなく、でも「あるものさがし」をすると宝物がいっぱいある。塩づくり、ヤギ肉の薫製、夜光貝磨き、釣り...いえ遊びだけでなく、優しい島民の皆さんや何かのときにはいっぱい汽笛を鳴らしてくれる人情味あふれる十島丸、素直な子ども達。だから、教師である以上どこに行っても宝物はあると思う。ここでの時間は僕にとっては宝物なのかもしれない。



あるものさがしをするときりがなく、でも「あるものさがし」をすると宝物がいっぱいある。塩づくり、ヤギ肉の薫製、夜光貝磨き、釣り...いえ遊びだけでなく、優しい島民の皆さんや何かのときにはいっぱい汽笛を鳴らしてくれる人情味あふれる十島丸、素直な子ども達。だから、教師である以上どこに行っても宝物はあると思う。ここでの時間は僕にとっては宝物なのかもしれない。

### 教員仲間である「あなた」への私からのメッセージ



鹿児島島の教員になったら異動が宿命。でも言い換えると、いろいろな土地に馴染み、故郷づくりをすればいいんです。十島の七つの島は、それぞれに個性があります。だから、楽しいんです。教師として人として貴重な体験になるはず。ここでの必要な物は、元気・情熱・創造の荷物で充分です。